

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 どーむ		
○保護者評価実施期間	令和7年12月2日		～ 令和7年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和7年12月2日		～ 令和7年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている。	支援計画作成、モニタリングの際には必ず保護者との面談を実施し、ご家庭・併行通園先での様子、ニーズをお聞きした上で、個別支援計画を作成しています。	引き続き、保護者の方、お子さんのニーズを丁寧に聞きとり、必要な支援ができるよう支援計画の作成を行います。
2	こどもや家族からの相談の申し入れについて、対応の体制が整備されており、相談や申し入れに迅速に対応している。	送迎時や連絡帳を通して、保護者の方とコミュニケーションをとり、お子さんの様子を共有しています。送迎時にお話しすることが多くなりますが、必要に応じて面談を実施し一緒に考えながら進めています。	保育園への送迎を利用し、保護者の方とお会いできない児童に対しても、様子の共有が丁寧できるように、定期面談以外の面談機会を設けるなどの体制を整えていかれるように検討していきたいと思ひます。
3	お子さんが安心感を持ち楽しく通所している。	一人一人が落ち着いた環境で活動できるように、グループ分けを行い、必要に応じて個別での過ごしを入れながら進めています。	引き続き、一人一人の気持ちに寄り添い、楽しく活動する中で経験を重ね、自信を育んでいけるように進めていきます。また、職員一人一人の引き出しが増えるよう研修などを実施し支援力の向上に努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと交流する機会がある。	併行通園をしているお子さんが多いため、交流の機会を設定していません。	地域社会の中で共に育つ「インクルージョン」の視点を持ち、事業所としてできることを検討していきたいと思ひます。
2	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が作成され、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	各種マニュアルは整備されており、保護者の方も見ることできるように廊下に設置していますが、周知までに至っていない状況です。火災・地震・土砂災害を想定した避難訓練は月に1回、活動の中で実施しています。各種訓練や研修を定期的に職員に実施しています。	マニュアルについての認知度を高めていけるよう、保護者の方が今よりも見やすい場所に設置できるように検討していきます。また、避難訓練の様子や職員の研修の様子などを、どーむだよりの中でお知らせしていきます。
3			